

科目名称：	器楽Ⅳ	
担当者名：	朝倉 喜裕、水上 和子、上野 高裕	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
<p>「器楽Ⅰ」「器楽Ⅱ」「器楽Ⅲ」で積み上げた学びを更に確実なものとするため、課題は担当教員と相談しながら、各自の持つ演奏技術をもとに保育現場で活かせる曲目を自由に選択する。自ら、どのような曲を練習すべきかを考えることは音楽力をアップにもつながり、音楽が楽しいと思う気持ちを涵養する。そして、保育現場での子ども達との音楽あそび、音楽指導に繋がるよう、各自の得意曲として身につくようにしっかり練習取り組む。</p>		
授業の達成目標・到達目標		
<p>最終授業（各クラス2組に分け2週にわたり）において、各自一番得意な曲を演奏してのプレゼンテーションを行う。ピアノ独奏、連弾、弾き歌い、語りにピアノ、歌を交えた創作等、各自自由に選曲する。演奏の最終目的は自ら楽しみ、聴く人々も楽しみ、心を伝えあい喜びを分かち合うことであり、上手下手にこだわらず自分の得意なこと、幼いころからの経験や記憶、五感（視覚、聴覚、味覚、触覚、嗅覚）までもフルに活かして楽しみむことを目指す。自分の持つ演奏技術で最大の効果を発揮できるセンスを磨くことの大切さに気づくことと、練習次第では経験の長い上級者だけではなく、まだ経験の短い人でも表現豊かな演奏に繋がる可能性を追求する。</p>		

幼児教育学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP (1)	建学の精神と設立の理念を基に、基礎知識を修め、子ども・保護者・地域住民に信頼され、多様な文化に対応できる幅広い教養が身についている。	
DP (2)	優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、保育・幼児教育の分野において貢献できる使命感、倫理観、責任感、実践力を身につけている。	○
DP (3)	幼児教育の学びを通して多様な社会に対応できるような豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP (4)	学生一人ひとりが、演習、実習などを通して様々な課題に取り組み解決する学修経験を重ねることで、その場に応じた活用力が身についている。	

評価方法／ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
幼児教育DP (1)					0
幼児教育DP (2)		70	10	20	100
幼児教育DP (3)					0
幼児教育DP (4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》 (水上) 附属西南幼稚園園長 代理	《経験年数1》3年
	《内容2》 (水上) 附属西南幼稚園園長	《経験年数2》1年
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
演奏技術	聴く者に感動をあたえる演奏で、曲の持つイメージが適格に表現されている。	概ねミス無く演奏している。曲のイメージが表現されている。	メロディー、リズムが正しく、概ね演奏している。	メロディー、リズムが間違えず何度も止まらないように努力を要する。
課題の進め方	意欲的、自発的である。	1回、1回を丁寧にこなしている。	発表までに仕上げる。	課題に取り組む様に努力を要する。
受講態度	授業に向き合う姿勢が大変良い。	はっきりとした声で挨拶をし笑顔が良い。	挨拶はできるが、声が小さい。笑顔が良い。	挨拶ができ、態度やことば遣いが出来る様に努力を要する。

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 担当教員に練習曲、練習計画についてアドバイスを受ける。	練習したい曲の楽譜を準備し、練習計画をたてておく	30分
第2回 学生の選択した課題を吟味して適正や難易度を見極め相談(ディスカッション)する。	自分の選択した曲を再度考慮し、アドバイスに沿って楽曲を精査する。基本的な練習に取り組んでおく	30分
第3回 取り組む楽曲と発表への方針を固め演奏する。	楽曲確定のために基礎練習を試み、難易とゆ適正を自身で確認しておく	30分
第4回 楽曲を演奏する。	確定した楽曲の練習に取り組んでおく片手、ゆっくりと基本を大切に。	60分
第5回 楽曲を演奏する。	確定した楽曲を可能な限り最終フレーズまでを目指し練習しておく	60分
第6回 楽曲を演奏する。	確定した楽曲を可能な限り最終フレーズまでを目指し練習しておく	60分
第7回 楽曲を演奏し、曲の完成度を確認し、最終の講評会の演奏曲を決定する。	講評会の曲目練習。表現構成を考え、楽曲をチェックしておく	60分
第8回 簡単にレッスン室でグループごとに演奏を確認しあう。各課題の完成度を見極め、講評会に向けて演奏の習熟度を高める。	取り組んだ楽曲のフレーズをチェックし表現できるよう習熟度を高めておく	60分
第9回 簡単にレッスン室でグループごとに演奏を確認しあう。各課題の完成度を見極め、講評会に向けて演奏の習熟度を高める。	取り組んだ楽曲の全般をチェックし表現できるよう習熟度を高めておく	60分
第10回 楽曲の仕上がりを確認し、最終のプレゼンテーションに向け方針を相談する。	講評会の演奏曲の最終選定と練習をしておく	30分
第11回 講評会の曲を演奏する。	講評会の演奏曲を練習しておく。基本練習の繰り返しを行い、難しいフレーズをチェックする。	60分
第12回 継続して講評会の曲を演奏する。	講評会の演奏曲を練習しておく。指導を受けたポイントの反復練習を中心に、正確な演奏を心掛ける	60分
第13回 講評会に向けて仕上がりの最終確認を行い、苦手な部分をしっかりとレッスンする。	講評会の演奏曲を練習しておく。演奏の習熟度を高め、表現力の上積みを図る。	120分
第14回 講評会(プレゼンテーション、鑑賞)	講評会の演奏曲を練習しておく。演奏の習熟度を高め、表現力の上積みを図る。習熟度を高め表現力の上積みを図る。	120分
第15回 講評会(プレゼンテーション、鑑賞)	講評会の演奏曲を練習しておく。前週の内容や結果を参考に、自身のプレゼンテーションの習熟度を高める	120分
事前事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と準備学習を含め短期大学設置基準で規定された学修時間が必要である。また、ピアノ演奏技能の習熟には、限らない努力が必要である。課題曲集プリント(ピアノ・弾き歌い)を基本に取り組み、片手、階名唱、歌唱のみの基礎練習を大事に練習に取り組んでもらいたい。		
成績評価の方法・基準		
定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。 講評会の習熟度とレッスンでの課題取り組み姿勢で評価 発表会70% 取り組み姿勢20% レポート10%		
課題に対するフィードバック		
課題発表の評価記入のレッスンカード返却を返却し、フィードバックする。		
教科書・参考書		
学生各自が担当教員指導の下でそれぞれに楽譜を用意する。		